

令和 8 年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立墨田中学校
校長名	小出 和正

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
【1年生】 全教科で全国平均を上回った。特に国語、数学、英語では、全ての観点において全国平均を 5.0 ポイント以上上回る高い成果が見られた。 また、社会の「知識・技能」の観点が全国平均を上回ったことで、全教科の「知識・技能」の観点で全国平均以上を達成した。 【2年生】 国語と数学は、それぞれ全国平均を、1.7 ポイント、0.4 ポイント上回った。特に国語の「知識・技能」「思考・判断・表現」および数学の「知識・技能」の観点については、昨年度に引き続きに全国平均を上回る結果となった。 【3年生】 全教科で全国平均を上回った。特に数学は全国平均を 7.1 ポイント上回り、昨年度との比較でも全国平均との差が 2.4 ポイント拡大した。また、社会についても全国平均との差を 0.3 ポイント伸ばしており、学力向上の成果が見られる。	【1年生】 ・社会の「思考・判断・表現」の観点のみ全国平均を下回った。この傾向は昨年度から継続しており、社会的事象について考察し、判断した内容を適切に表現する力の育成が課題である。 【2年生】 ・社会、理科、英語が全国平均を下回った。 ・英語は昨年度には全国平均を上回っていたが、今年度は特に「思考・判断・表現」の観点において全国平均との差が拡大した。 ・社会、理科は昨年度に引き続き全国平均を下回っており、全国平均との差は社会が 3.5 ポイント、理科が 3.6 ポイント拡大している。 【3年生】 国語、理科、英語は、全国平均を上回っているものの、昨年度と比べて全国平均との差が縮小している。 ・国語、社会、理科では、「知識・技能」の観点が全国平均を下回っており、基礎的・基本的な内容の定着に課題が見られる。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
【1年生】 学習意欲の標準スコアは 53.3 となり、昨年度に全国平均を下回った状況から改善が見られた。また、学習環境については、3 項目で全国平均を 2 ポイント以上上回っており、安心・安全な環境な環境の中で主体的に学習へ取り組んでいる様子がうかがえる。 【2年生】 生活習慣・学習習慣の標準スコアは全国平均を 3 ポイント以上上回り、昨年度に全国平均を下回っていた状況から改善が見られた。また、学級環境については全ての項目で全国平均を上回っており、特に規範意識は全国平均を 4.9 ポイント上回るなど、落ち着いた学校生活を送る生徒が多いことがうかがえる。 【3年生】 生活習慣・学習習慣に関する 3 項目で全国平均を上回った。特に規範意識の項目では全国平均を 2.8 ポイント上回り、落ち着いた学校生活を送ることができている様子がうかがえる。また、昨年度に引き続き全項目の平均値が全国平均を上回っており、安心・安全な学校生活を送ることができていることがうかがえる。	【1年生】 学習習慣の標準スコアは 49.2 で、全国平均を 0.8 ポイント下回った。学習意欲は高いものの、それが家庭学習や計画的な学習行動に十分結び付いていない生徒が見られる。また、生活習慣については、約 4 7 %の生徒に課題が見られ、特にメディア利用時間の長さが課題となっている。 【2年生】 学習習慣は昨年度に引き続き全国平均とほぼ同程度の水準であり、主体的な家庭学習や計画的な学習への取組の定着が課題である。生活習慣については、約 4 5 %の生徒に課題が見られ、特にメディア利用時間の長さや睡眠不足の傾向が課題となっている。 【3年生】 学級環境では、学級の絆の項目が全国平均を 1.7 ポイント下回った。また、学級間の差も見られることから、学年全体として生徒同士のつながりや居場所づくりを一層推進していく必要がある。生活習慣については、約 5 2 %の生徒に課題が見られ、特に睡眠不足の傾向が課題となっている。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

全国学力・学習状況調査から

成 果	課 題
・国語では、平均正答率 68%で全国公立平均を 4.1 ポイント上回り、昨年度と比較して全国平均との差も 1.4 ポイント拡大した。上位層（12～15 問）の割合は 41.2%で、全国平均を 7.7 ポイント上回っていることから、文章を正確に読み取り、情報を整理して理解する力が定着していると考えられる。 ・数学では、平均正答率 59%で全国公立平均を 2.0 ポイント上回った。上位層（13～16 問）の割合も 33.3%と全国を 4.2 ポイント上回り、下位層（0～4 問）の割合は昨年度から改善が見られ、全国平均を下回る結果となった。基礎的・基本的な知識・技能の定着に加え、それらを活用して考察する力も身に付いていることがうかがえる。 ・英語では、平均正答数が 7 問中 4.1 問で全国平均を 0.4 ポイント上回り、IRT 平均スコアも 510 と全国平均を 11 ポイント上回った。特に IRT バンド 3・4 に属する生徒の割合が 71.1%を占めており、多くの生徒に英語の基礎的・標準的な力が身に付いていると考えられる。	・国語では、平均正答率は全国を上回るものの、下位層（0～6 問）の割合も 16.8%見られる。基礎的な読解力や語句の理解に課題を抱える生徒への継続的な支援が必要である。 ・数学では、平均正答率が東京都公立平均を 3.0 ポイント下回っており、下位層（0～4 問）の割合も 17.6%見られる。基礎的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、学力下位層への支援を充実させる必要がある。 ・英語では、平均正答数および IRT 平均スコアは全国平均を上回っている一方、東京都公立平均を 0.2 ポイント下回っている。また、最上位層である IRT バンド 5 の割合は 6.1%で東京都を 3.1 ポイント下回った。英語を活用して自らの考えを表現する力や発展的な内容に対応する力の育成が課題である。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 「学習ふりかえり期間」を活用した基礎学力の定着と学び直しの充実

墨田区学習状況調査において課題が見られた社会・理科を中心に、「学習ふりかえり期間」を活用し、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る。単元ごとの確認問題やふりかえりシートを活用して生徒一人一人の学習状況を把握するとともに、D・E 層の生徒に対して計画的に学び直しの機会を設定し、学力の底上げを目指す。また、国語・社会・理科においては、定期的な確認テストや補充学習を実施するとともに、既習事項を繰り返し活用する学習活動を授業に位置付けることで、「知識・技能」の観点における課題の改善を図る。

(2) 「墨中スタンダード」に基づく授業改善と思考力・表現力の育成

校内研究を通して「墨中スタンダード」の実践を推進し、本時の目標と学習の見通しを明確にした授業づくりを進める。特に、社会においては資料を根拠として考察し表現する活動、理科においては観察・実験の基本的な技能や科学的用語の確実な定着を図る活動、英語においては自らの考えや思いを英語で表現する活動を充実させる。また、生徒同士の協働的な学びを通して、課題を多面的に捉え、自らの考えを表現する力を育成することで、「思考・判断・表現」の観点の向上を図る。

(3) ICT を活用した個別最適な学びと学習習慣の確立

ロイロノート、Qubena、ミライシード等を活用し、生徒一人一人の習熟度や学習状況に応じた個別最適な学習を推進する。特に英語における「書くこと」の指導や数学における基礎・基本の定着に向けた個別支援を充実させる。また、家庭学習の記録や振り返り活動を継続的に行うことで、主体的に学ぶ態度を育成するとともに、学習におけるメディアの適切な利用を含めた基本的な生活習慣の改善を図り、家庭学習の充実と学習習慣の定着につなげる。

3 「令和 9 年度 墨田区学習状況調査」の目標

- ・国語・数学・英語の全学年において、全国平均正答率以上を維持する。
- ・国語では、記述問題の無答率を全国平均以下にし、自分の考えを論理的に表現する力を向上させる。
- ・数学では、D・E 層の割合を各学年 30%未満とし、基礎・基本の確実な定着を図る。
- ・理科・社会では、D・E 層の割合を 45%未満から 40%未満へ改善し、基礎的知識・技能の定着を図る。
- ・全教科の観点において、全国平均正答率を上回る。